

第1学年 外国語科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時

学 級：第1学年〇組

場 所：1年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

1 単元名

Daily Scene4 ウェブサイト（東京書籍 NEW HORIZON English Course1）

2 単元目標【育成を目指す資質・能力】

- ・自分の学校について、読み手を意識して、内容・表現・構成を考え、5文以上の英語で書いて、ウェブサイトで紹介することができる。（外国語表現の能力）

3 単元について

（1）生徒の実態

小学校の外国語教育で英語に慣れ親しんできている生徒たちにとって、聞いたり話したりすることにはそれほど抵抗がなく、積極的にやりとりを楽しむ様子がうかがえる。1学期には、自己紹介をする単元において、“I am ~.”や I like(play) ~.”などの表現を用いて、10文程度の英語で発表することができた。「読むこと」「書くこと」についても、小学校の既習事項を使いながら、自分の英語が友だちに伝わってうれしかったことやもっといろいろなことを伝えられるようになりたいといった伝え合うことへの意欲を示す感想が多くあった。

しかし、伝えたいことがある一方で、表現することを途中で諦めてしまう生徒も少なくなく、語数の増加や三人称単数現在形などの英語独特の文構造に戸惑う生徒の姿が伺える。このことから、生徒たちの「やりたい」「できるようになりたい」という思いを支えにしながら、英語で書くことについて支援することが求められると考える。

生徒は、自分の学校の紹介文を書くために、モデル文や海外のウェブサイトの英語の内容を読んで理解し、そこから得た知識や文章の構成を活用する。その際、いくつかのウェブサイトを読んで、読み手を想定した工夫等、それぞれのよさを見つけたり、考えたりしながら、自分の学校についてウェブで紹介できるような活動が求められる。

（2）教材について

各学年の単元 Daily Scene には、「話すこと」が中心のものと、「書くこと」が中心のもの2パターンがあり、本単元では「書くこと」に重点が置かれ、自分の学校の紹介文を書くことをねらいとしている。参考になるモデル文はいくつかの表現とともに提示されており、内容、構成および既習の言語材料によるまとまりのある英文からなることから、書くために分析的に読み、内容や構成等を生かしながら書く言語活動が設定できる教材である。さらに、モデル文に加えて扱う実際の英文ウェブサイトは、〇〇市の海外派遣事業の交流校のものであり、派遣生を受け入れるにあたって自校について紹介するというコミュニケーションの必然性をもたせながら、「読むこと」と「書くこと」の2技能が統合的に活用されることとなる。また、その内容を理解するために「読むこと」も必須であることから、必要に応じて辞書の活用が促され

る生徒たちは文章の内容を考える際には、自由な発想で伝えたい情報を選び出し、これまでの既習の言語材料を活用して表現することが期待される。

(3) 指導について

〇〇市が実施している海外派遣事業で本校と交流のある学校の海外 Web サイトを使用することで、生徒たちの興味・関心を引き出す。こちらから訪問する際に、私たちが事前に Web サイトで検索するように、現地の中学生も同じようにするだろうという想定のもと、本校の魅力を伝えるためには何をどのような文構造で伝えるのがよいかなど、読み手を意識した書き方を考える必然性をもたせる。

さらにまとまった英文を書くために、モデル文や海外ウェブサイトの内容や表現についての授業者との英語のやりとりや生徒同士の交流を通して、内容を理解しながら、表現等を考えることで、生徒のこれまでにもち得ている既習事項を引き出し、内容や表現等を吟味しながら書く言語活動とする。その際、それぞれの過程に違いがあったとしても、自分たちが書いた英文の内容や表現等の工夫を互いに認め合いながら、自分の考えや表現を整理する場を設定することで、この後の学習においても学びが活用されるよう、全員が「できた」と感じられる学習にしたい。

(4) 「読み解く力」に関わる目指す生徒の姿とその育成のための手立て

ここでは、〇〇市海外派遣事業で〇〇市立〇〇中学校に派遣される中学生に対し、自分の学校について紹介するという目的意識をもたせて進めることとする。「発見・蓄積」として、授業者や友だちとのやりとりを通して、学校紹介のために必要な内容や伝え方をモデル文から見つける。それをもとに、「分析・整理」として、派遣される中学生の学校のウェブサイトの紹介文を読み、相手意識をもって、どんなことをどのように紹介するかを考える。その際、紹介するにあたって参考となる言語材料や構成を見つけ、それらを活用し実際に書き始める。さらに、互いに読み合い交流する。それらを生かしながら、「理解・再構築」として、自分たちの学校紹介を書きまとめる。

このように、本校と交流のある学校の生徒を迎えるにあたり、〇〇中を英語で伝えるウェブサイトを考えるという目的、場面、状況とともに、友達と交流しながら、「読むこと」「書くこと」を統合的に活用させる言語活動を設定する。それにより、主に「書くこと」についての資質・能力の育成を目指す。

4 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ウェブサイトに乗せる自分の学校の紹介文を、わかりやすく書こうとしている。	自分の学校の紹介文を、5文以上で書くことができる。	学校紹介のウェブサイトを読んで、どのような学校かを理解することができる。	学校紹介のウェブサイトに乗せる英文の構成を理解している。

5 単元の指導と評価の計画（全2時間、本時2／2）

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	・単元のゴールを共有する。	・創立年数や生徒数、教員	・学校紹介のウェブサイ

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学校のウェブサイト英語で書くために、モデル文を読む。 ・モデル文の構成を理解する。 ・モデル文をもとに〇〇中学校について英語で書く。 <p>Our school is _____, Japan. It's _____ years old. We have about _____ students and _____ teachers.</p> <p>We love our school.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外の学校のウェブサイト①を読んで、自分が書いた、自分の学校の紹介文と照らし合わせながら、学校行事等の内容を書くための情報を取り出す。 	<p>数などの情報はあらかじめ準備しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全文ではなく、必要な情報について書くよう、机間支援する。 ・海外派遣事業の相手校のウェブサイトを表示する。 <p>・<u>モデル文、海外ウェブサイトから内容と伝え方について、理解できるようにする。</u></p>	<p>トを読んで、どのような学校かについて理解することができる。(理)</p> <p>下線+波線 二重線</p> <p>下線+波線 二重線</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学校のウェブサイト英語で書くために海外の学校のウェブサイト②を読んで、必要な情報を取り出す。 ・学校紹介のウェブサイトに載せる英文を作成するために、必要な語彙や表現を確認する。 ・グループで交流し、情報を比較し、その情報をもとに英文を書き加えたり、書き直したりする。 ・個人で書いた紹介文を全体でシェアする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>モデル文、海外ウェブサイトから内容と伝え方について、理解できるようにする。</u> ・<u>内容や表現について、書いたものをよりよくするためにグループで交流する。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介のウェブサイトに載せる英文の構成を理解している。(意・理) ・自分の学校の紹介を、5文以上で書くことができる。(表)

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

6 本時の目標

自分の学校について、読み手を意識した工夫を加え、5文以上の英語で紹介する文を書くことができる。

7 本時の評価規準

- ・学校紹介のウェブサイトに載せる英文の構成を理解している。(言語や文化についての知識・理解)
- ・自分の学校の紹介文を、5文以上で書くことができる。(外国語表現の能力)

8 本時の展開 (本時2 / 2時間)

	生徒の学習活動	指導の留意点 (・)	評価規準 (◎) 活動のねらい (○)
導入	<p>○本時のねらいを知る。</p> <p>T: Next year, some American junior high school students are going to visit ○○ J.H.S.</p> <p>So let's write about our own school.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外派遣事業で、アメリカの○○の中学生を迎えるにあたり、○○中を英語で伝えるウェブサイトを考えることを確かめる。 	<p>○学校紹介のウェブサイトを読んで、どのような学校かを理解することができる。(関・理)</p>

	<p>○モデル文，海外ウェブサイトの内容と伝え方について、確認する。</p> <p>T: What is the school name?</p> <p>S: Midori International JHS.</p> <p>T: Where is ~?</p> <p>S: ~.</p> <p>T: Why “Japan”? (×2 海外 Web も同様に)</p>	<p>・<u>教師と生徒による英語のやり取りにより確認する。特に、読み手を意識して、Japan と記述している箇所に注目できるようにする。</u></p>	
<p>展開</p>	<p>○○○中学校を紹介するウェブサイトの英文を作成する。</p> <p>・海外の学校のウェブサイト②を読んで、必要な情報を取り出す。</p> <p>Ex) Welcome to ~. Our school is ~.</p> <p>・読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書く。</p> <p>Our school is in ~. We have ~ in October. We practice every morning for ~. It's not easy, but it's fun.</p> <p>○グループで交流し、情報を比較し、その情報を基に英文を書き加えたり、書き直したりする。</p>	<p>・内容と伝え方に着目できるようにする。その際、表現に加えて、まとまりのある英文を書くための工夫を取り上げて共有する。</p> <p>・<u>教師や生徒とのやり取りをしながら進める。</u></p> <p>・必要に応じて辞書を活用する。</p> <p>・<u>机間支援しながら、海外のウェブサイト②の内容や伝え方に着目できるようにする。その際に「自分の学校の情報メモ」をもとにしながら、ウェブで伝えるのに必要な語彙や表現を確認する。</u></p> <p>・<u>読み手が知りたい内容（○○中の魅力）を伝えることができるように、内容や表現をよりよいものにする</u>ことを目的にグループで交流する。</p> <p>・<u>書いた紹介文の内容と伝え方についてフィードバックをする。その際、読み手への配慮がある英文となっているかに焦点をあてる。</u></p>	<p>○海外の学校のウェブサイト②を読んで、理解することができる。(理)</p> <p>○読み手を意識して、自分の学校紹介のウェブサイトに載せる英文を書くことができる (表)</p> <p>◎読み手を意識して、自分の学校について、5文以上で書くことができる。(表)</p>

	○個人で書いた紹介文を全体でシェアする。	・生徒の紹介文の内容と伝え方のよさを取り上げ、価値付けする。	○自分の学校の紹介文例を聞いたり、読んだりして理解することができる。 (理)
まとめ	○今日の振り返りをする。	・紹介文を書く際の構成や工夫について、理解が深まったこと、新たにわかったことなどを振り返るように指示する。	

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

9 授業参観の視点

- ①自分たちの学校を海外に向けて英語で紹介するために、海外の学校紹介やウェブサイト等を読んで、その概要や書き手の意向を理解し、さらに読んだことを基にまとまりのある英文で書くことができたか。
- ②海外から中学生を迎えるにあたり、互いの学校について理解し合うために（目的意識）、相手校のウェブサイトを読んで、その概要とともに書き手の意向や文化背景について、生徒同士や教師との英語によるオーラルインタラクション（やりとり）を通して理解を深められたか(A1,B1)。それを基に、その文の構成や既習の言語材料を活用しながら、書いたものを互いに読んで話し合い、整理しているか(A2,B2)。それらを生かして、自分たちの学校について英文で書きまとめているか(A3,B3)。